



## ユニバーサルデザイン 特集に寄せて

富士通株式会社 代表取締役副社長

杉田 忠靖

これからの企業経営の視点として環境、サステナビリティ（持続可能性）と並び「ユニバーサルデザイン」が注目されてきています。最近、新聞・雑誌などでも「アクセシビリティ」、「バリアフリー」、あるいは「デジタルデバインド」といった言葉を目にしますが、まだ、社会福祉や弱者救済の見地から高齢者・障害者対策といった意味で使用されることが多いように思われます。

ユニバーサルデザインの問題は、我々IT業界だけでは解決できない領域も多く、様々な業界が手を組んでいかなければ、一人でも多くの方々に満足いただける真のユニバーサルデザインによる社会の実現は難しいでしょう。また、そうした異業種間のコラボレーションの中から新しいビジネスが生まれてくる可能性もあります。日本が既に直面している高齢社会は、我々自身の日常生活に直接的に影響する課題として、社会全体として真剣に取り組んでいくべき問題と言えます。

また、IT関連企業にとってユニバーサルデザインへの取り組みは、単に社会的な責任を果たすという企業倫理的な観点だけでなく、e-Japan重点計画でも五つの重点分野の横断的課題として「デジタルデバインド是正」が挙げられているように、情報のバリアフリー化はビジネスの側面からも避けては通れない課題であり、お客様の視点に立ったモノづくりの基本スタンスとして、全社をあげた取り組みを必要とする重要テーマの一つと言えます。事実、最近の政府や自治体関係の商談では情報システムの要求仕様としてアクセシビリティに関する項目が具体的に盛り込まれるなど、いよいよ商談獲得を左右する、差し迫った課題となってきました。

富士通は昨年暮に開催された「国際ユニバーサルデザイン会議2002」に特別協賛し、ユニバーサルデザインの考え方に基づく製品づくりの積極的な取り組みをアピールしました。具体的には“FACT-V”や「らくらくホンII」などの製品や「富士通ウェブ・アクセシビリティ指針」の公開など市場でも認知・評価されてきた例もあります。しかし、全体としての実績は残念ながらまだ十分とは言えないのが実情です。

ユニバーサルデザインへの取り組みはe-Japanの例でも分かるように、すでに啓発の段階ではなく、実践として具体的なシステムやサービスの提供を強く求められています。また、その要求に積極的に応えていくことがサステナブルな企業経営につながり、ビジネスとして活性化していくものと考えています。

今回の特集では、急速に関心が高まってきたユニバーサルデザインの動向と、富士通の具体的な製品・サービス開発への取り組み事例、新手法などをご紹介します。

本特集号が「ユニバーサルデザイン」に対する理解を深め、富士通グループから提供されるあらゆるシステム、ソフト・サービス開発の基本スタンスとして浸透し、当社のお客様、さらにはその先のお客様の満足度向上につながりますことを強く期待いたします。